

MOMAT コレクション展

東京国立近代美術館（略名 MOMAT）《北の丸公園》 2022.03.18～05.18

「東京国立近代美術館」は、行政法人国立美術館が運営し1952(昭和27)年に開館した館で、明治時代後半から現代までの絵画・彫刻・水彩画・素描・版画・写真などの近現代美術作品をコレクションして常時展示をしている。

当本館の展示品は、「1万3000点」を超える国内最大級の充実した収集品で、その中から重要文化財「15点」を含む「180～250点」が、時代ごとに展示されて近代美術の流れを辿って観賞をすることができることが特徴である。



今回、当館で新収蔵作品としてピエール・ボナールの名作《プロヴァンス風景》が、特別展示されることで注目されている。

ボナールは、フランスの画家で19世紀後半はパリで活動した芸術家集団「ナビ派」に属し、日本絵画へも強い関心を持っていた。

本作品は、そんなキャリア後期を象徴する作品で、“黄色や紫を好んだ画伯の独特な色彩感覚や抽象度の高さが際立つ、多様な筆致ときらめくような画面”が特徴である作品である。



アンリー・ルソー《第22回アンデパンダ展に参加するよう芸術家達を導く自由の女神》1905～06年

誰でも自由に出品できる展覧会「アンデパンダン展」出品作品で、パリの上空で、自由の女神が展覧会の開催を高らかに告げている。会場は、鮮やかな国旗やのぼりがはためき、威風堂々たる猛獣が厳粛さを添えている。

無数の画家や並木の葉の細密描写も素晴らしく、税関史として働きながら、独学で絵を描き始めた「日曜画家：ルソー」にとって、かけがえのない同展へ想いが込められている。



川合玉堂《行く春》

1916年 重要文化財

景勝地長瀬の大きな岩肌が幾重にも連なり、陽光に照らされ岸には3隻の水車船が繋がれ、仕事

をする人の姿や水車から水が流れる構図である。風に舞う無数の桜の花びらまでが丹念に描写され、桜の散り際に〈行く春〉を惜しむ光景が描かれている。